

令和6年度 第1回
芽室町図書館協議会議案

と き 令和6年9月27日(金)
14:00~15:00

ところ 芽室町図書館視聴覚室

1 開 会

2 生涯学習課長あいさつ

3 議案

(1) 令和6年度図書館要覧について

(2) 令和6年度芽室町図書館利用統計について - 1

(3) 図書館繰上開館・木曜夜間開館について - 2

(4) 芽室町図書館設置及び管理条例施行規則の改正について - 3

(5) その他

4 報告

(1) 第64回北海道図書館大会について - 4

5 その他

6 閉 会

芽室町図書館協議会委員名簿

所 属	氏 名	備考
学校教育関係者（芽室西小学校長）	アヅマ ショウゾウ 吾妻 昌三	
学校教育関係者（芽室西中学校長）	ツバキハラ マサアキ 椿原 雅章	
学校教育関係者（芽室高等学校長）	フジタ ヒロフミ 藤田 博史	
社会教育関係者（ひよこひよこ）	コイケ カズエ 小池 和枝	
社会教育関係者（むぎの穂）	ササキ ノリコ 佐々木 紀子	
学識経験者 公 募	ヤマシタ タダシ 山下 正	
学識経験者 公 募	タナカ ミサエ 田中 美佐枝	
学識経験者 公 募	コバヤシ ムツミ 小林 睦未	

※任期 令和5年6月1日～令和7年5月31日

令和6年度芽室町図書館利用統計

	貸出冊数(冊)			貸出者数(人)			行事利用者数(人)		
	令和6年度	令和5年度	差	令和6年度	令和5年度	差	令和6年度	令和5年度	差
4月	10,960	12,334	△ 1374	2,538	2,827	△ 289	256	597	△ 341
5月	11,428	10,611	817	2,570	2,399	171	1,026	710	316
6月	10,960	10,524	436	2,399	2,217	182	287	298	△ 11
7月	10,336	11,558	△ 1222	2,349	2,624	△ 275	401	974	△ 573
8月	11,872	11,367	505	2,892	2,530	362	931	995	△ 64
合計	55,556	56,394	△ 838	12,748	12,597	151	2,901	3,574	△ 673

電子図書館

	貸出冊数				貸出者数
	電子書籍	オーディオブック	マガジン	合計	
4月	418	12	46	476	133
5月	469	20	95	584	125
6月	733	14	54	801	151
7月	711	3	76	790	156
8月	455	15	36	506	128
合計	2,786	64	307	3,157	693

※参考 R5(6ヵ月分)	4,512	195	500	5,207	1,395
-----------------	-------	-----	-----	-------	-------

図書館繰上開館・木曜夜間開館について

1 図書館繰上開館

- (1) 目的 小中学校長期休業期間の児童生徒の利用促進と居場所作り
- (2) 内容 期間中午前10時の開館時間を午前9時に繰りあげる。
(木曜日の閉館時間を午後8時から午後7時に繰りあげる。)
- (3) 実績 令和5年度冬季休業期間(令和5年12月23日～令和6年1月14日)
令和6年度夏季休業期間(令和6年7月27日～令和6年8月25日)

(4) 統計

	令和5年度冬季休業期間	令和6年度夏季休業
実施日数	14日間	25日間
午前9時台貸出利用者数	46人	101人
(うち小中学生)	(4人)	(16人)
午前9時台貸出冊数	144冊	258冊
(うち小中学生)	(4冊)	(30冊)
参考 全利用者数	1,780人	2,717人
参考 全貸出冊数	8,194冊	11,171冊

(5) 今後 限られた資源を投入することの費用対効果、夏季の公共施設の快適な環境提供はどうあるべきか、等を検討して継続か否かの判断を行う。

2 木曜夜間開館について

- (1) 内容 毎週木曜日午後8時まで開館する。
平成8年10月から試行し、平成9年4月から実施。
- (2) 目的 就労者層の利用利便向上等
- (3) 実績 午後7時～午後8時までの利用者数 290人
(令和5年度貸出者数31,218人に対し0.93%)
令和5年度の午後8時まで開館した木曜日 45日
うち利用者5人以下の開館日 25日(利用者0人2日 1人5日)
利用者6人以上の開館日 20日
※冬季休業繰上開館で午後7時に閉館した木曜日2日
- (4) 今後 利用実態や投入するコストに対する読書振興への効果等を考慮して、継続、一部縮小(午後7時閉館)、等について検討していく。

芽室町図書館設置及び管理条例施行規則の改正について

1 概要

図書館の年末年始の休館日の変更、視聴覚資料の利用規則の改正、申請書等の様式類の変更を令和6年9月27日開催の教育委員会議に提案し、議決がされた場合、令和6年10月1日から施行する。

2 内容

・ 年末年始休館日の変更

現行 12月31日 ～ 1月5日

改正 12月29日 ～ 1月3日

・ 視聴覚資料の利用規則の改正

現行 2点 1週間

改正 3点 2週間

3 改正の理由

・ 年末年始休館日の変更

令和4年度に芽室町役場全庁で変更を行った際、年末近くまで子どもたちが利用できるよう従来通りの休館日としたが、利用者アンケート等で役場と合っておらずわかりにくい等の声が寄せられ、また事務上の日程管理、予算執行、連絡調整にも不具合があり、他部署との統一を図ろうとするもの。

・ 視聴覚資料の利用規則の改正

利用者から貸出点数を増やして欲しいとの声が寄せられており、利用利便の向上を図る。また図書と利用期間をあわせることにより利用者の資料管理の煩雑さを減らすことにつながるものと判断した。

・ 申請書等の様式類の変更

視聴覚資料の利用規則の改正に伴うもの、ほか。

第64回北海道図書館大会について（参加報告）

- 1 期間 9月12日（木）～13日（金）
- 2 会場 札幌コンベンションセンター
- 3 テーマ コミュニティーとしての図書館を考える
- 4 基調講演「本は心のかすがい」 講師 河崎 秋子氏（直木賞受賞作家）

《講演要旨》

別海町で中学校卒業までを過ごす。町の中心部にある図書館まで10キロほど、家業が酪農であったこともあり、時間的制約から自由に思い切り本を読むことが叶いにくい。小学校の図書室では学習に役立つ漫画等を読んでいたが、「本ばかり読んでいないで」と言われたこともある。

帯広の高校に進学し、図書館や大型の書店があったので本ばかり読む生活を手に入れる。その一方で学習環境としては当時の図書館は適さず、市内の別の施設を利用せざるを得なかった。学生にとって、静かな落ち着いた環境で学習できる場としての図書館（図書室）の役割は大きい。

札幌の大学へ進学。3年生頃から道内各地の歴史をまとめ出版する会社でアルバイト。多くの図書館に市町村史が残されていることの価値を認識する。地域のお年寄りから話を聞き取り、正誤を確認しながらテープ起こしをするのは大変な仕事。別海の自宅の近くから気づかずにいた地域の歴史の形跡を認識したこともあり、亡くなった祖父母の話をもっと聞いておけばよかったと思うことしきり。文章化される過程で削り落とされた話の中にこそ小説以上の「小説」がある。

自身の経験からも、人の心にざらっとした印象を残す作品を書きたい。家にある本（親の価値観によって選ばれた本）だけを読んでいては出会えない価値観を知らせてくれる本との出会いを生む場として図書館、書店の意義は大きい。ネットの世界は信頼できないことがあるが、図書館は信頼できる大人が線引きをしているという点で安心感がある。図書館とは新しい価値観に出会う場、学校から離れている子の居場所、あいつ本ばかり読んでいと言われない場である。

- 5 プログラム①「図書館とコミュニティ」 講師 北海道図書館研究会 会長 加藤 重男 氏

《発表要旨》

近年は公民館図書館、複合施設に入る図書館が全国的に増えている。コミュニティセンター（地域社会の結合の中心的役割を果たす施設）の一つの形態としての図書館のあり方、機能、取り組み、ボランティアとの関わり等の多面的活動を、道内165の図書館（室）を視察した経験から説明。

スタッフと住民が共同体意識を持ち、図書館（室）というコミュニティセンターをプロデュースすること、住民自らがその地域にとってより魅力的な図書館（室）にしたいというニーズに沿った環境を作ることが求められていくのではないか。

6 プログラム②「生成AIと情報の行方」

講師 帯広大谷短期大学地域共生学科キャリアデザインコース 教授 大平 剛 氏

《発表要旨》

思考しているかのように話をする人工知能、ChatGTPが登場。現在はそれぞれの特徴を持った数種の生成AIが次々と登場している。こうした機能が求められるのは、みな余裕がなくなってきた、できないで済ませられない、手早く正解がほしいという状況があるから。

その一方で生成AIが生む問題は、ハルシネーション（幻覚）、著作権、プライバシー、雇用の喪失、電力不足、財源不足等がある。

生成AIは日々進化しているが、あくまでも代行するだけで判断しているわけではない。

(※時間不足もあり、もやっとした終わり方。聞き手である私の理解不足もある)

7 プログラム③「図書館でのゲーム活用事例と今後の展望」

講師 丸善雄松堂株式会社（近畿大学ビブリオシアター勤務） 高倉 暁大 氏

《発表要旨》

ボードゲームの館外貸出 2018年…1館 2023年…21館

ボードゲーム企画を開催 2018年…74館 2023年…150館

なぜ図書館でゲームをするのか ・図書館に来てもらうきっかけとして

・居場所としての役割

・読書推進、生涯学習として（ゲームの主題に興味）

・文化の保存として

図書館には全てのジャンルの本があるので、全ての物事と読書は繋がる。だから、ゲームに限らず、全ての物事は読書に結びつき読書推進が可能。スタッフの「好き」を読書推進に活かすことができる。